

初心を忘れるな！

県統計課 粉川 清

統計課の事務室は警察本部庁舎の5階にある。警察本部庁舎の玄関を入ると正面に交通事故死者数を記入した掲示板があり、交通事故による死者数と全国順位、警察署順位が掲示されている。交通事故による死者数は昭和49年度は全国順位第6位(480人)で死者数の多い県のグループに入っている。本年5月7日現在の死者数は前年同期より38人少ない130人で全国順位は第9位となっている。

5階にはエレベーターを利用することになるが一昨年暮れまでは2台動いていたエレベーターが石油危機のあおりを受けて運行1台となり石油不足が解消した現在も節電協力のためかそのままになっている。そのため当然のことながら待ち時間が多く手持無沙汰なので受付横廊下の「本日の広報」板をみる。「×××で火災損害〇〇万円」、「普通乗用車が立木に衝突死亡1名軽傷2名」、「軽自とダンプが衝突」など広報板は毎日賑やかである。

この広報板を注意してみると交通事故の記入がなかった日はない。こんなにも交通事故が多いのかと驚く。

交通事故を少なくすることが絶対に必要であるとき、ある土木部長は「道路をせんとく板のようにすれば事故は少なくなる。」と言ったとか確かにそうである。現在の社会では政府は金をかけて道路を良くし、メーカーは苦勞してスピードの出る車を作り事故を多発させている皮肉なものである。

ところで県内で交通事故はどのくらい起きているか。昭和49年度は、昭和48年度の14,010件より少なくはなっているがそれでも統計によると11,850件の事故が起きている。この数は警察に届出のあった事故の数であるので、届出しないで処理したものを加えると相当の数になる。

交通事故の原因としては安全運転義務違反が1番多く約50%、そのうち前方不注意が26.4%を占めている。

交通事故を起こした運転者の年令を調べてみると年令20才~25才の者が起こした事故が1番多く25.0%、2番目は25才~30才の者で、18.5%、3番目は20才未満の者(運転免許をとれる年令は16才以上)で13.5%となっている。年令45才以上の者となると事故は少なくなって来ている。この年令になると車を運転するより乗せてもらう側になるからではないかと思われる。また、この数字

は若い人ほど車の運転が必要になっていることを示している。

自動車損害賠償保険料をみても若い人の乗る車の保険料は割高になっている。保険会社でも交通事故を起した者の年令別統計をみて保険料を定めているのではないと思われる。

また、交通事故を起こした運転者の経験年数を調べてみると経験年数3年未満の者が起こした事故が1番多く28.8%、次が経験年数3年~6年の者の20.8%である。3番目は運転経験年数12年以上の者となっており18.5%となっている。運転経験の短い初心者の事故が最も多いのはうなづけるが、経験12年以上の者の事故が3番目とは驚く。

なぜ運転経験12年以上のベテランの事故が多いのか。これは経験が長くなるに伴わない運転は「慣れ。」が出、運転中動作に油断が出、また、注意力が散漫に、無理な追越しなどを行うためではないかと思われる。

車を運転する者は、初めて運転免許証を貰った時の初心の気持ちに戻り常に安全運転を心掛けて運転すべきである。

「慣れの恐しさ。」このことについては自動車運転ばかりでなく、日常生活にもあてはまるのではないだろうか。家庭においても、また、家庭外においても慣れがでてくると、他人がみるとおかしく感じるようなことを平気でやっている。仕事についても学校を卒業して社会に出たとき、また、新しい職場に入ったときなど、当然のことながら気持ち新たに働く意力も充分であるが、時がたち日がたち5年も同じ仕事をしていると「慣れ。」が出、仕事に対する熱意も衰え、10年もたつと惰性で仕事をするようになりがちである。

時には、角度を変えて物を見る習慣をつけるとともに、常に若々しい初心の気持ちに戻り仕事をしたいものである。

われらトーマン

統計グラフの作図法

統計グラフの作り方⁽³⁾

<単位グラフ>

同形、同大、同単位に決めた任意の記号（どのような形でもよいが、わかりやすい単純な形がよい。）を、数えやすいように整列させて、比較を示す。2種類以上の記号を並用するのは原則として避けるほうがよい。

数値間の差が相当大きい場合や、端数の表現が困難である。〔1図〕

はた、絵グラフの90パーセントは、この単位グラフに使われて、単位絵記号グラフ（アイソタイプ・グラフ）などと呼ばれている。〔2図〕

<面積グラフ>

比較しようとする数値間に相当な差（普通3桁程度以上）がある場合に利用される。

各数値の平方根を算出して、その比を円の半径または正方形の一辺とした面積で比較する。その際各面積に実数かパーセントを記入する。〔3図〕

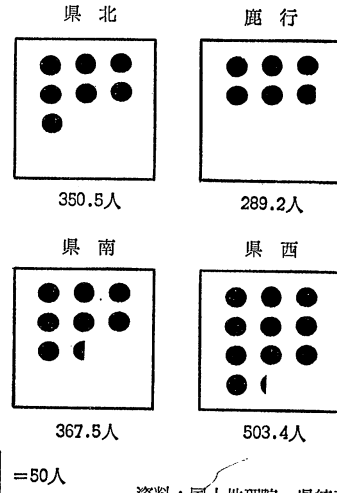
<体積グラフ>

これも面積グラフと同様に、数値間の差が大きい場合に使われる。

各数値の立方根の比を、球体の半径または立方体の一辺の長さとした体積で比較する。この場合にも各体積に実数かパーセントを記入する。端数の表現が困難なためである。

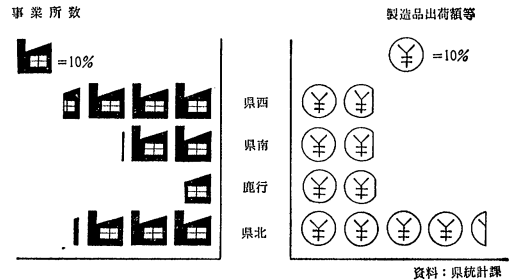
体積グラフの場合、面積グラフの時より、小さい方の数値を一まわり大きく表すことができる。

面積グラフ、体積グラフともに共通の欠点としては、各数値間の差が過少に表現されることから、視覚的に正しい比較が困難であるという点があげられる。



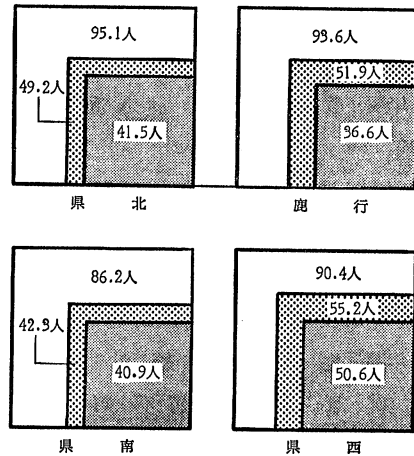
〔1図〕

資料：国土地理院・県統計課
地域別人口密度（昭昭48年10月1日）



〔2図〕

資料：県統計課
地域別事業所数・製造品出荷額等
（昭和48年12月31日）



〔3図〕

資料：県統計課
人口千人当たりの小・中・高校別生徒数
（昭和48年5月1日）

県統計課 伊藤 宰

新 着 資 料 案 内

下記の資料は、4月中に行政資料室に到着した主なものです。このほか、年鑑・年報・月報 各種計画書・報

告書・法令・教養・参考書・雑誌など数多くきておりますので御利用下さい。

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
中央官公庁関係				
日本の統計 1975	50	A5	298	総理府 統計局
国際統計要覧	〃	〃	234	〃
昭和50年事業所統計調査に用いる産業分類	〃	B5	245	〃
昭和48年度統計基準年報	48	〃	285	行管庁 行政管理局
日本統計月報資料解説編	50	〃	185	〃
諸外国における統計制度	〃	〃	273	〃
指定統計の調査票集録	〃	A4	223	〃
昭和47年農業生産組織調査報告書	47	B5	681	農林省 統計情報部
昭和48年産米及び麦類の生産費	48	〃	185	〃
昭和48年水産物流通統計年報	〃	〃	337	〃
〃 林家経済調査報告	〃	〃	229	〃
〃 食糧管理統計年報	〃	〃	561	食糧庁 調査課
〃 さば漁場別統計	〃	〃	37	関東農政島統計情報部
支店のある企業に関する統計表	47	〃	205	通産省 調査統計部
昭和48年水害統計	48	〃	334	建設省 河川局
昭和49年 全国都道府県市区町村別面積調	49	〃	160	〃 国土地理院
昭和48年度 国税庁統計年報告	48	〃	189	国税庁 総務課
昭和48年分 法人企業の実態	〃	〃	167	〃
茨城県関係				
昭和49年度 教育統計報告書	49	B5	171	統計課
昭和48年 茨城の工業	48	〃	258	〃
〃 茨城県法人企業統計調査報告書	〃	〃	47	〃
公害防止策定地域環境汚染基本調査報告書	49	〃	174	大気保全課
茨城県光化学スモッグ対策要綱	50	〃	33	〃
事務改善に関する職員意識調査結果報告書	49	B4	86	文書課
昭和48年度 生活保護統計年度報	48	B5	79	県民福祉課
国民健康保険疾病分類統計表	49	〃	141	医療福祉課
昭和50年後 事業計画書	50	〃	42	保険課
茨城県における医療の現状	49	〃	53	医薬務課
石岡市広域商業診断報告書	49	〃	135	経営指導課

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
大洗町商店街診断報告書	49	B5	116	経営指導課
昭和49年度稲作等転換等対策事業実績	〃	〃	31	農政企画課
昭和50年度植物防疫事業	50	〃	187	農産園芸課
昭和48年度そさい試験成績の概要	48	〃	169	教育普及課
〃新技術課題別成績書	〃	〃	301	〃
特産生産物団地育成事業の実施概要	49	〃	41	〃
昭和49年度学校給食実施状況	〃	〃	30	健康厚生課
1974茨城県遺跡地名表	〃	〃	123	文化課
都道府県関係				
昭和48年岩手県統計年鑑	48	B5	627	岩手県 統計調査課
〃岩手県の県民所得	〃	〃	101	〃
昭和49年新潟県の人口移動	49	〃	133	新潟県 統計課
昭和48年度都民所得統計年報	48	〃	81	東京都 統計部
〃神奈川県行政年報	〃	〃	608	神奈川県 統計管理課
昭和49年度学校基本調査結果報告書	49	〃	99	〃
〃千葉県の人人口と世帯	〃	〃	64	千葉県 統計課
昭和48年静岡県統計年鑑	48	〃	431	静岡県 〃
昭和49年商業統計	49	〃	71	石川県 統計調査課
〃富山県の歩み	〃	〃	240	富山県 〃
昭和48年大阪府消防統計	48	〃	83	大阪府 統計課
昭和49年版大阪市統計書	〃	〃	269	大阪市 〃
昭和48年度兵庫県民所得	〃	〃	101	兵庫県 〃
昭和49年商業統計調査結果報告	49	〃	197	広島県 〃
〃徳島県の商業	〃	〃	177	徳島県 〃
昭和48年度福岡県の法人企業	48	〃	119	福岡県 調査統計課
福岡県民の生活に関する意識調査結果報告	〃	〃	84	〃
昭和49年大分県鉱工業生産指数	49	〃	49	大分県 統計課
昭和48年度県民所得推計報告書	48	〃	97	鹿児島県 〃
昭和48・49年沖縄県統計年鑑	48・49	〃	387	沖縄県 〃

統計ニュース

— 6月の主な行事 —

- | | | | |
|---------|----------------------------------|----------|---------------------|
| ○9~10日 | 国勢調査庶務主任者会議(山梨県) | ○16~20日 | 国勢調査市町村事務担当者会議(第1次) |
| ○12~13日 | 北関東四県統計主管課長会議(栃木県) | ○20~21日 | 統計事務改善研究会(かもめ荘) |
| ○12~13日 | 1975年農業センサス事後調査ブロック会議(かもめ荘)農林省主催 | ○24~27日 | 統計事務基礎研修(ときわ荘) |
| | | ○30~7月1日 | 国勢調査第2次ブロック会議(かもめ荘) |